



# 思考への探求

校内研究だより

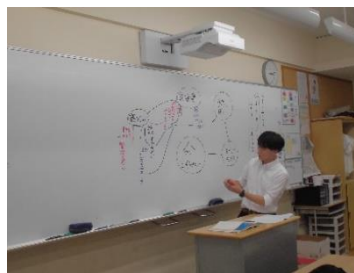
令和5年9月15日

No.2

## 学ぶこと・考えることを楽しむ

～全教科で育てる「言葉の力」

思いを伝え受けとめ(個別最適な学び)ともに学ぶ(協働的な学び)子どもの育成～



今年度第二回目の校内研究を行った。今年度の新たな研究内容には、「言葉の力」がある。今年度重視する点は、「子ども達の思いをどのように表現してくか」である。その点を重視した授業展開を研究していく。今回は2組とも国語科であった。6年2組下川教諭は「やまなし」の教材で「叙述から読み取ったことなどお友達と共有し、相違点に気づく」という目標だった。班ごとに発表し、その後下川教諭が板書の手法として「クラゲ図」を採用し、根拠は足にしながらい童の発表をつなげていった。

「クラゲ図」という、新しい提案は斬新であった。



5年2組福田教諭は、「カイロ団長」の教材で「作品に対する自分の解釈を友達に伝えたり、友達の解釈を聞いたりして自分の「マトメディア」に生かせることを見つけることができる」という目標であった。子ども達は作品に対する自分の解釈を交流した。PCの「ストリーム機能」を使用し、文字言語でも自分の考えを発信した。書き込まない児童は、周囲の友達と話すことで、自分の思いを表現した。最後には子ども達が相互指名で発表していった。机の並び方においてもユニークで、常に学級の仲間の顔が見える形態になっている。そのようなことから、今回の授業も福田教諭は「子ども達がお互いの顔を見て発言したことが印象的であった。」と自評で発言した。「マトメディア」という新たな提案をした。

講師の先生は、文教大学教育学部教授 甲斐雄一郎先生をお招きした。甲斐先生から、「本校の研究テーマに即したご指導」や「国語科の魅力について」また、「今の小学生の課題」などのご指導をいただいた。今回学んだことを、これから子ども達と向き合う中で、活かしていきたい。